



職員手作りの撮影ブースで
記念写真を撮って30周年
記念式典を締めくくりました



これまでの皆様からのご支援に心より感謝申し上げます。
今後ともよろしくお願ひいたします。



里だより

No.356

令和3年9月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



行事予定・
ありがとうございました・
編集後記……………

……………8

創立三十周年記念式典報告

……………6

サービス向上委員会より・
行事報告……………

……………5

職員より・医務より……………

……………4

主任より……………

……………3

サビ管より……………

……………2

施設長より……………

……………1

(ページ)

九月号もくじ

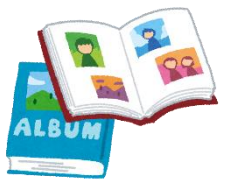


つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より



秋とは名ばかりの、うだるような暑さが続いたかと思うと、秋雨前線・線状降水帯による大雨・洪水警報が発令されました。被害に遭われた皆様には、お見舞い申し上げます。

草稿の際は、県下のコロナウイルス感染者が連日百名を超え、最多人数の更新が続く中、一八九名との発表もありました。当施設では、八月十日に第一陣の二回目のワクチン接種を終えたところです。数名の利用者さんと職員に、発熱と倦怠感の副反応がありました。副反応に気をつけながら適切な対応で臨みたいと思います。

さて、八月三日に「創立三十周年記念式典」を利用者さんと職員で行いました。コロナ禍において、出来る範囲でのお祝いとなりました。その様子は、本誌またはホームページでご確認いただければと思います。式典では、三十年の歴史を振り返り懐かしんでいたために、退職された数名の職員にもDVDでの出演をお願いしました。出演を快諾いただき、有難いと同時に依頼をした際の想い出話の中心は、やはり利用者さんのこと。「○○さんは、元気にされていますか」「△△さんと、作業したのを覚えています」十年、二十年前のことを鮮明に覚えてくれていて、利用者さんのことを遠くから気にかけてくれていたことに気づかされます。

退職した職員がスクリーンに映し出されると、身を乗り出さずと手を振られる方もいて、利用者さんにとっても、かけがえない人だったこと、今でも想い出深い人であったのだろうと、

いろいろ考えさせられたりしました。

式典前後には、利用者さんとも「つくしの里今昔の話」が増えました。三十年でどんなふうに変わったか尋ねると、「建物が増えた」「洗濯機が（二層式から全自動に）変わった。テレビが小さく（薄く）なった」「人が多くなった」「職員さんが入れ替わった」「皆、年取った」「昔は、私もあんたも若かった」「グループホームに移った」「グループホームは別のところにあった」「三十年前はおらんかったけど、つくしの里に来た理由は、見学の時に○○だったから」「松永さんは、○色の車に乗ってた」等々。

古いアルバムを捲ってみると、現在は車いすの方も、遠足では往復十キロほどの道のりを歩かれていたり、農繁期の収穫やビールハウスの設営、目まぐるしく納品に追われていた室内作業をされる若々しく凛とした利用者さんの姿があり、多くの想い出がよみがえります。アルバムを一緒に見ていると、あの時はこうだった、あーだったと、利用者さんの口数も増えて話が止まりません。自分が出来ていたことを誇らしげに話されているのを聞いているこちらが嬉しくなります。認知症の回想法ではありませんが、利用者さんにとっても、このような時間を増やすのは、良いことなのだろう感じています。

最後になりましたが、三十周年を迎えるにあたり、各方面よりお祝いの言葉をいただきました。つくしの里が今あること、利用者さんと今を過ごせることは、これまで多くの方のお力添えがあったからこそとお礼申し上げます。今後とも、福祉の一助となるべく邁進してまいります。ご指導の程、宜しく願い申し上げます。

施設長 松永一博

サビ管より

「施設開設三十周年の節目にあたり、原点に立ち返り、施設の設立経緯、利用者の暮らしを見つめ直し、利用者理解及び、援助者としての自己理解を深め、さらなる利用者支援の充実、質の向上に努める。また、社会福祉援助者としての価値を見出し、専門職としての円熟を目指す」

〜令和三年度の事業計画の基本方針から抜粋しました〜

今年度、理学療法士の方に月一回訪問指導をしてもらっています。先月、三回目の訪問で、車いす・歩行器を使用している方の状況と介助方法を指導して頂きました。

利用者さんを見た瞬間に、その方の状況を見立て、手を加えられると、魔法をかけられたかのように変化が見られました。具体的には、腰が曲がり、歩行器がないと歩行がおぼつかなくなった方の手を取り、前、後ろ、右、左に数歩ステップを踏むというのを二、三回繰り返しただけの一分ほどの時間でした。背筋が伸びて、体の傾きも軽減されました。また、体の拘縮が強く、車いすの足置きに足が乗らない方の親指を内側に曲げられただけで、足の緊張がゆるみ、足が乗るようになりました。ほんの数秒の事でした。

身体の仕事に対する知識の量、経験により培われた知識の量は、相当なものがあるのだろうと想像できます。それに加え、対象の方が安心できるように接されるため、初めて体を触られる方なのに利用者さんが笑顔で受け入れておられました。

それを目の当たりにしたときに、福祉の仕事に携わっている私、私たちは、どれだけ専門性があるのだろうかと問われている気がしました。

障害の状態に合わせた対応がどれだけ出来ているでしょうか、乞われて他の施設に指導に行くことがあるでしょうか、地域福祉の要としてソーシャルワークに携われる人がいるでしょうか、揺るがない倫理観を持ち行動している人がいるでしょうか。

遊びは本気で真剣に熱中してする。では、仕事は？嫌なもの？きついもの？仕方なくするもの？生活のためにするもの？

一人ひとりに仕事のとらえ方があると思います。その枠組みを持つに至った経験、教えられた考え方、色々あったと思います。自分の枠組みをまず知り、その枠組みを持ち続けるか変えるかどうかを選ぶ時期だと思えます。どちらを選ぶ方が楽しく誇りをもって仕事ができるか。そして、福祉の仕事をしている中で、何か一つ、突き詰めて磨くところを見つけた働きかけをしていくことが私の基本方針への取り組みだと思えました。

サービス管理責任者 木庭 由香



主任より



気持ち・やる気・意欲・動機・モチベーション

二〇二〇年を迎えてすぐに、新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。その終息は未だに見えてきません。

賛否両論ある中、オリンピックが開催されましたが、選手の中には、コロナ禍でいざ練習をしようと思っても練習場所の確保が難しく、また器具などの消毒に要する時間で練習時間も裂かれ、柔道やレスリングなど人と密に接触するスポーツなどは、相手のいない練習を強いられたとのこと。その話から私は趣味？にしているランニングについて考えました。スポーツの中でも、ランニングって比較的自由だなということ。周囲の人に配慮をすることが前提にはなりませんが、基本的には場所や時間帯を問わず、どこでも、いつでもできます。例えば水泳はプール、サイクリングは高価なマシンが必要で、ランニングのような気軽さ、自由さはありません。その点はランニングならではのなと思います。

マラソンブームといわれて十数年。全国各地でマラソン大会が新設されましたが、昨年の春以降、コロナの影響で中止が相次いでいます。私のモチベーションは一気に下降、体重はゆるやかに上昇しました。ステイホーム、何かと非接触……。ふさぎ込みそうな気持ちを、やっと最近払拭し、考え方を変え、コロナ明けに開催されるだろう大会を励みにしています。

どうして走るのかとよく尋ねられますが、答えは一つ。走ったらすっきりするからです。心地よい肉体疲労はありますが、身体も心も爽快になります。また、自分と向き合う時間、ふりかえる

時間になっていきます。人と競うわけでもなく、自分がきついなと思ったら走るのをやめればよいのですが、自分で決めた距離数や時間に対してやり切った、達成感を感じたくて走っているのかなとも思います。コロナが明けたら、マラソンもしくはウォーキング大会に利用者さんと一緒に出たいと勝手に思っていますので、少し涼しくなったら、ゆつくりおしゃべりをしながらウォーキングに励みたいと思います。

最後に、担当利用者さんのことを少しご紹介します。

毎月一〜二回自宅に電話をかけ、母親に近況を連絡される利用者さん。熊本市内の病床がひっ迫していることを知り、先日の電話では開口一番「お母さん、元気しとるね」「コロナ気を付けて過ごさん」と言われました。

その後のお母さんからの話です。幼少期、手のかかったチョロチョロして心配だったあの子が、今は私の心配までしてくれる。外泊の度に自分の小遣いから家族にごちそうし、一円も出させてくれない。「私が働いたお金(作業工賃)から(ごちそうしたい)」「私も妹と同じように働いている。私がお金を払う」という言葉に涙が出そうになる。こんなことを四十数年前は思ってもいなかった。元気に生活出来ればいいと思いつ、とにかく親なき後をと。

お母さんが施設の設立に尽力されたのは四十歳代始め、私は今その年齢です。私は、自分のつくしの里の仕事との向き合い方を思うと恥ずかしくも、心が引き締まる気持ちがありました。施設設立準備の期間を含めると四十数年ほど。利用者さんの気持ちや考えは勿論、ご家族のこれまでの苦労や熱意、想いを心にとめて、これからのつくし里で一緒に歩んでいきたいと思えます。

主任支援員 長渕 さくら

職員より



Gさんは色白で顔立ちが整っていて、笑顔がとても可愛らしい方です。担当になってからGさんの視力や行動などを考えながら、施設内を歩くようになりました。ちょっとした段差や暗い場所、人が行き交う廊下や食堂など、不安なところが多いので、Gさんの気持ちを考えながら声を掛けるようにしています。もし担当にならなかつたら、そうした利用者さんの気持ちもわからなかったかもしれません。

また、歌がお好きで、たくさんの歌をご存じです。家に帰ると自分でカラオケをセットして十八番の『天城越え』を歌っていたそうです。感染対策のこともあり、4班の活動で歌を歌う機会が少なくなってきましたが、私も歌が大好きなので、コロナが落ち着いたら一緒にデュエットしたいなと思っています。(支援員 川上)

私は、6月まで椎間板ヘルニアでお休みを頂いていました。休職中は、通常の生活がやっとの状態でしたが、何とか7月から復帰するまでに回復する事が出来ました。

利用者さんにも心配をかけていたようで、復帰後、「腰は大丈夫と?」「腰、大丈夫ね?」と声を掛けていただきました。担当利用者のNさんは私の顔を見るなり、ニコニコと笑顔で体全体を動かして喜びを表現され、胸がホッコリしました。利用者さんの優しい気持ちを感じました。今回のことで、腰対策として色々ストレッチ体操を知る事が出来ました。腰は大事ですから、その体操を活動に取り入れて、利用者さんと一緒に日々取り組んでいます。

また、利用者さんの作品を日本障がい者就労支援協会のアート作品展に出展しました。私が休職中に14枚の貼り絵を作成されていたので、その作品を利用者さんと一緒に考えて繋げて1枚の作品を作り上げました。利用者さんの考えでは、干支の絵を全て作って仕上げたかった様でしたが、間に合わず半分の干支で仕上げる事となりました。納得がいかなかったのか、次の日から「今度は全部完成させてから出展したい」という、人一倍の頑張りとお作品に対しての情熱を感じました。(支援員 松川)

医務より

新型コロナワクチン予防接種を希望された64歳以下の入所・グループホーム利用者、職員への接種が8月19日で終了しました。今のところ大きな副反応もなく終了しています。ワクチンを接種したからといって今後かからないわけではありませんが、集団免疫を得ることができたという点では少し安心して生活できるのではないかと思います。

世間では第5波の影響が大きくなっています。インドで検出されたデルタ株が熊本でも



猛威を振るっており、感染拡大の治まりが見えない状況です。ワクチンはデルタ株に対しては重症化を予防する効果はみられているようですが、感染しない・させないことが一番です。ワクチンを接種したからといって油断せず、日々の感染対策を怠らないようにしたいと思います。

(看護師 松村)

サービス向上委員会より



■ 事故防止【主任支援員 山中・支援員 尾崎あ・池田と】

いかにして事故を無くすか、また、大きな事故に発展させないか等を考え活動する委員会です。

今年は、「事故が起こった後の職員の対応の在り方」「利用者さん自身にも事故を起こさないようにする為の意識づけ」の2点に着眼しました。事故を未然に防ぐことは最も大事なことです。どんなに注意を払っていても事故は起こると考えておくことも重要です。起きた事故に対して、適切かつ迅速な対応をすることが大事故に至らせない鍵となります。職員が事故を起こさないように意識するのは当然のことですが、利用者さん自身にもそのような意識が芽生えれば、もっと事故を減らすことができると思います。その為、イラストなどをうまく用いて、事故防止について利用者さんに分かりやすく伝えていければと考えています。

利用者の皆さんに、快適かつ安全に生活して頂く為にも、委員会として事故を無くすよう尽力していきます。

行事報告 ※ 7/21 (水) ~8/20 (金) の実施分について報告いたします

★ 創立 30 周年記念式典【8月3日 (火) つくしの里】

「河野園長おんなったよ！」と式典が終わると、数名の利用者さんが近寄って来られました。記念式典で上映した、退職した職員からのお祝いメッセージ DVD の最後に登場して頂いた初代施設長は、利用者さんにとって、いつまでも特別な方ようです。

当初は、ホテルでの式典を計画していましたが、今年度も新型コロナウイルスの影響下にあったため、施設内で利用者さんを中心にした式典をすることにしました。コロナ対策として、3会場に分かれて各会場を映像でつなぐリモート開催となりました。

午前中の式典の様子は、次のページに写真入りでご紹介します。

昼食は、お祝い弁当と日清医療食品さん手作りのケーキ、メロンで大満足。午後からは、記念写真撮影会とかき氷会を実施し、楽しい一日を過ごしました。

小規模にはなりましたが、30周年記念曲を作ったり、食事は利用者さんの外出でとてもよくしていただいたアンジュールハウスさんに頼んだり、30周年記念 DVD はドローン撮影をしたり、記念品のタオルのデザインなど、細部にこだわったお祝いができたと思います。ついクスっとしてしまったのは、かき氷屋台の名前が「甘味処みそじ」だったこと(笑)。つくしの里は 30 歳。人間だと脂がのってこれからバリバリ働く頃でしょうか。つくしの里も次の 10 年に向けて今までの歴史を糧に進んでいければ良いなと思います。



創立三十周年記念式典等に関する「報告」

式典の様子



開会宣言



理事長挨拶



施設長挨拶



保護者会長挨拶
三三七拍子で大盛り



利用者代表挨拶
「楽しい生活にします」



記念 DVD,
メッセージ DVD 上映



記念品授与



閉会宣言(「フレー！フレー！」のエールを添えて)



○三十周年記念曲「Brightly(ブライトリー)」のご紹介
作曲の勉強をしたことがある職員が作詞作曲を手がけました。ホームページからお聴き頂けます。

この場所から生まれたつくしの子
輝くキラキラした未来を夢見て
思ったよりゆがんで「ゴボコ」な場所
それでもつくしの子は空を見上げる
陽の光浴びて 小さな頭上げて
身体はグッと倒されないようにと
春にはつくしが土から顔出す
冷たい風が吹いたとしても
折れずに 倒されずに
たくましく背を伸ばして
負けずにつくしのような強さで
どんな事も乗り越えていきたい
その先に待っている
幸せをつかむために
道間違ったり 転んだり
膝すりむいたり
目の前真っ暗になる日もあった
もうダメだと思っても
諦めそうになっても

諦めないでいてくれる人たちがいた
春にはつくしが土から顔出す
冷たい風が吹いたとしても
折れずに 倒されずに
たくましく背を伸ばして
春にはつくしが土から顔出す
激しい雨が降り注いで
折れても倒されても
たくましく生きていきたい
未来が今とは変わっても
前を向いて歩いていきたい
必ず 誰にでも
幸せは待っている

※ネット環境や再生媒体にもありますが、通信料が発生したり、再生ソフトが必要になる場合があります。ご注意ください。

- ・小川 眞司 様
- ・平田 靖人 様
- ・尾田 一広 様
- ・藤田 孝志 様
- ・荅山 寮 様
- ・日清医療食品株式会社 南九州支店 様
- ・つくしの里保護者会 様
- ・清和会職員互助会 様
- ・松永 一博 様
- ・石塚 正司 様
- ・鮑田 一夫 様
- ・古川 信子 様
- ・第二荅山 寮 様
- ・南九州支店 様
- ・大塚 武年 様
- ・中尾 精一 様
- ・鮑田 逸子 様
- ・坂本 励帆 様

○三十周年式典に際し御厚志ありがとうございました



～記念品～

日常で使える品物が良いだろうということでタオルを作りました。

優しいグリーンとピンクの2色です。

ピンクの方には30周年記念曲をデザインしました。



雨の合間に、ワックスがけをしました。本体施設とグループホームの建物は業者に依頼しましたが、別棟は職員有志で行いました。写真は学習訓練棟の様子です。早速、記念品のタオルを頭に巻いて張り切った職員もいましたよ。

施設PR委員会 今月の1枚!



草刈りが大変なシーズンを迎えたがみんなで協力して頑張りました!



行事予定



☆ 敬老会 (つくしの里)

期 日：9月15日(水)

内 容：利用者の皆さんの健康と長寿を願って、還暦・古希・喜寿・傘寿を迎えられた節目を施設内で祝いたしたいと思います。



☆ 5班カラオケ大会 (つくしの里)

期 日：9月22日(水)

内 容：景品を用意し、高得点者から景品を選んでもらいます。昼食はちょっと豪華なお弁当とデザートを準備する予定です。



※新型コロナウイルス流行の状況によっては予定を変更する場合があります

ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和三年七月二十一日～

令和三年八月二十日です

【ショートステイ・

日中一時支援事業のご利用】

(六名 延べ 十七日)

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、七月三十一日から受け入れを中止させて頂いております。

【寄付・寄贈】

- | | |
|-----------------|-----------|
| ・岩根 亨 様 | ・内村 スマ子 様 |
| ・緒方 朋子 様 | ・後藤 弘子 様 |
| ・藤田 孝志 様 | ・古川 昌代 様 |
| ・古川 信子 様 | ・米田 政輝 様 |
| ・渡辺 今朝次 様 | ・岡本 範子 様 |
| ・佐藤 典子 様 | ・武元 典雅 様 |
| ・馬場区 様 | |
| ・株式会社 アールエスエス 様 | |
| ・日清医療食品 株式会社 様 | |
| ・株式会社 キューネット 様 | |
| ・千石屋石油 様 | |

【ボランティア】

- ・ 村里 和洋様
- ・ 佐藤 典子様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。

編集後記

創立三十周年記念式典で私が一番印象に残ったのは、食事会のお弁当です。刻み食やペースト食の方には小さい容器に小分けしてありました。容器の蓋には料理名やソース名のシールが貼ってあり、食べる人への細やかな心づかいにプロの仕事を感じました。

利用者さんの食の安全を確保しつつ、楽しく美味しい食事が課題だったので、栄養士共々、勉強させて頂いていただきました。



※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。